様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成　２９　年　　６　月　１６　日現在

機関番号：　６２６０８
研究種目：　基盤研究(C)（一般）
研究期間：　2012～2016
課題番号：　２４５２０２６１

研究課題名（和文）本文と絵画を通じて形成された伊勢物語場面理解の研究

研究課題名（英文）Study on understanding scene in Ise Monogatari formed through text and painting

研究代表者
藤島　綾（FUJISHIMA, Aya）

国文学研究資料館・研究部・機関研究員

研究者番号：８０５９９５５６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：伊勢物語が平安時代に成立して以来、人々はさまざまな事物を通じてこの物語に接してきた。本研究では、本文や注釈書などの文献資料にくわえ、絵画や工芸などの多様な視覚資料について調査と検討を行った。そして、その成果をふまえて、おもに江戸時代以降の人々が持っていた伊勢物語の場面理解について総合的な把握を目指すとともに、これらの資料の間に認められる影響関係について追究した。

研究成果の概要（英文）：Since the establishment of the Ise Monogatari in the Heian period, people have understood this story through various things.In this research,I investigated and studied not only literature materials such as texts and annotations but also various visual materials such as paintings and crafts.Based on the results,I aimed at comprehensive understanding of the scene understanding of the Ise Monogatari which people had since the Edo period, and also investigated the influence relationships among these materials.

研究分野：　人文学

キーワード：　伊勢物語　挿絵　かるた　注釈書　伊勢物語絵　絵入　受容

１．研究開始当初の背景
伊勢物語を題材とする絵については、『伊勢物語絵巻』（日本絵巻物全集、白畑よし、角川書店、１９６５）、『伊勢物語絵巻』（日本絵巻物大成、小松茂美、中央公論社、１９７９）、『伊勢物語絵』（伊藤敏子、角川書店、１９８４）『伊勢物語絵』（日本の美術、千野香織、至文堂、１９９１）などによって研究や紹介がされてきた。その後、２００７年に刊行された『伊勢物語絵本絵巻大成　資料篇・研究篇』（羽衣国際大学日本文化研究所、角川学芸出版）では、所載の絵巻や絵本に関して日本文学や日本美術を専門とする研究者による分析と解説が付されており、伊勢物語絵の研究が作品の類似や影響関係の指摘にとどまらず、描写の分析や作品全体像の把握という新たな局面へすすんだことを印象づけた。
ただし、その一方で、伊勢物語絵の歴史を把握するには、江戸時代にひろく流布した絵入り版本やるたに対する視点が不可欠であろうと思われた。しかし、本研究の開始時点において、これらの資料については、先駆的な研究はあったものの、体系的研究は必ずしも活発に行われておらず、とりわけかるたについてはほとんど実態が不明であり、それらの解明が課題となっていた。
そこで、研究代表者は、これらの資料の持つ挿絵や図様について整理分析を行い、物語本文や注釈書や工芸品などの多様な資料との比較検討を通じて、近世の人々が持っていた伊勢物語理解を総体的に把握することが可能なのではないか、そしてそのことは日本の歴史のなかで伊勢物語がどのような存在であったかを明らかにしていくことにつながるのではないかと考えた。

２．研究の目的
伊勢物語絵入り版本刊行の歴史を整理するとともに挿絵の変遷を明らかにする。それらの持つ相違点に関して明らかにし、それらが生じた背景と後世に与えた影響を考察する。また、伊勢物語かるたについては資料の所在を含め不明な点も多いことから、まずは所在確認を行い、可能なかぎり資料調査と撮影を実施したうえで、図様を分析し伊勢物語絵としての位置づけを行う。これらを含む絵画や工芸品などの多様な視覚資料と注釈書や物語本文などの文献資料とを総合的に検討し、おもに近世の人々が持っていた伊勢物語場面理解を明らかにしていくことを目的とする。

３．研究の方法
（１）版本を対象とした伊勢物語絵に関する情報の集積（２０１２年度中心）。国文学研究資料館蔵マイクロフィルム、インターネット、刊行物、各機関で所蔵される資料の調査などを通じて、情報の集積を行った。

（２）伊勢物語かるたに関する書誌調査と情報の集積および本文の翻字（２０１２～２０１６年度）。まず、インターネットや刊行物を手がかりにかるたの所在を特定した。その上で、所蔵者の許可を得られた場合は調査と撮影を行い、その後、撮影データを現像して札の記載内容の分析を行った（一部の機関からは画像の提供を受けた）。未調査資料については刊行物等の記事から情報を集積した。また、かるたに記載された和歌本文の翻字を行った。

（３）写本を対象とした伊勢物語絵に関する情報の集積（２０１４年度中心）。マイクロフィルム、インターネット、刊行物、各機関で所蔵される資料の調査を通じて情報の集積を行った。

（４）集積した情報の分析と考察。研究成果の発表（２０１２～２０１６年年度）。

なお、本研究期間中の調査等に際し、永青文庫、愛媛大学、川越市立美術館、九州産業大学、共立女子学園、久保惣記念美術館、神戸松蔭女子学院大学、国文学研究資料館、斎宮歴史博物館、斯道文庫、諏訪市博物館、センチュリー文化財団、大東急記念文庫、鶴見大学、鉄心斎文庫、東海大学、東京国立博物館、同志社女子大学、同志社大学、東北大学、徳川記念財団、某家、前田土佐守家資料館、三池カルタ・歴史資料館、八代市立博物館（５０音順）をはじめ多くの関係者の方々より御高配をいただいた。ここに記して深謝申し上げる。

４．研究成果
（１）江戸時代、どのような伊勢物語絵入り版本が制作され販売されたかを整理し、そのうち１８世紀以降のものに関する資料解題を２０１３年３月に『調査研究報告』（国文学研究資料館）に掲載した。また、１８世紀後半に上方で活躍した絵師下河辺拾水が４種類の異なる伊勢物語絵入り版本の挿絵に関与していることを新たに指摘し、挿絵の持つ特色を提示したうえで、これらが元禄期（１７世紀後半～１８世紀初頭）に出版された版本の挿絵と関わっていることを明らかにした。この結果について原稿を執筆し２０１２年『国文研ニューズ』（国文学研究資料館）に掲載した。下河辺拾水については謎とされる点が多いが、生涯で１００以上の絵入り本の制作へ関わったと推定され、絵入り本出版の歴史を検討するうえで見過ごせない人物である。

（２）伊勢物語かるたはさまざまな状況から判断して、女性が所有することが多かったと考えられる。その人々が、かるたの図様を見ることで、伊勢物語の場面をどのように理解したかという点を明らかにするため、絵札に

描かれた図様の検討を行い、以下のような成果を得た。
①４１８枚（２０９首）のかるたのなかで一部の札のみに華やかな装飾をほどこす事例に注目し、その装飾がなされた背景とそれが人々に与えた影響について検討した。伊勢物語で詠まれた和歌がすべて等しく評価されていたわけではないということ、そして、そのような評価の違いがかるたの装飾に反映する場合があることを、謡曲の詞章や注釈書『闕疑抄』（細川幽斎）等の検討を通じて明らかにし、２０１２年１２月の絵入本ワークショップⅤ（関西大学）において研究発表を行った。また、同発表後もかるたの装飾札の図様について検討をかさね、その多様性と典拠に関する論文を２０１６年3月に『国文学研究資料館紀要　文学研究篇』（国文学研究資料館）に掲載した。あわせて同稿ではかるたの誕生に関わる逸話のひとつに重要な役割を果たす人物として登場するが詳細不明とされてきた「しうかく院」について検討し、細川忠興の側室秀岳院であろうと推定した。
②２０９枚の絵札の図様の典拠について、先行伊勢物語絵との関係、和歌との関わり、物語内容との関わりなどの観点から検討をくわえ、その結果について２０１４年８月の 14TH CONFERENCE OF THE EUROPEAN ASSOCIATION FOR JAPANESE STUDIES(リュブリャナ大学)において研究発表を行った。また、かるたの図様には、注釈書等の文献資料が示すものとは異なる場面理解が図示される例があることをあわせて指摘した。この図様の示す場面理解についてさらに検討を行い、同趣の理解を上田秋成『春雨物語』の中のひとつ「死首のゑがほ」に読み取ることができるのではないかと推定した。これらのことをふまえた論文を２０１６年3月『百舌鳥国文』（大阪府立大学）に掲載した。
本研究を通じて伊勢物語かるたの図様が持つ性格の一端を明らかにすることができたと考える。図様に基づいたかるたの分類についても一定の見通しを得つつあり、将来的には論文執筆等による成果発表を行いたいと考える。

（３）１７世紀後半から１８世紀初頭の京大坂において多くの伊勢物語写本制作に関わった葛岡宣慶という人物がいる。彼が関与した伊勢物語写本はこれまで１０点を確認できた。そのうち、絵入り本は3点含まれている。これらの絵入り写本の制作過程を検討したところ、挿絵の構図に関して、承応3年に京で刊行された伊勢物語絵入り版本と共通する特徴を見出した。この版本は現在静嘉堂文庫が所蔵する１点のみが知られるという希少なものである。この希少さにくわえ、挿絵は１７世紀に大きな影響力を持っていた嵯峨本のものと一見よく似ており、これまで詳細な研究はなされてこなかったようだが、本研究を通じて１７世紀後半の上方において同趣の挿絵を持つ絵本が複数制作されていたことがわかった。今後は出版や後世に与えた影響について、あらためて調査や研究が必要になっていくだろう。この点や宣慶書写本の持つ特徴について２０１６年１２月に開催された国際シンポジウム「絵入り本と日本文化」（絵入本ワークショップⅨ）（東洋文庫）において研究発表を行った。今後さらに挿絵の内容に関する研究をすすめ、論文を執筆する予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（４件）
①藤島　綾、かるたの中の伊勢物語、百舌鳥国文、査読有、27 号、2016、pp.15－26

②藤島　綾、二枚の絵札―伊勢物語かるたをめぐって―、国文学研究資料館紀要　文学研究篇、査読無、42 号、2016、pp.91－117、http://id.nii.ac.jp/1283/00001864/

③藤島　綾、国文学研究資料館蔵『伊勢物語』絵入板本和古書マイクロフィルム解題（三）―享保～慶応―、調査研究報告、査読無、33 号、2013、pp.41－103、http://id.nii.ac.jp/1283/00001087/

④藤島　綾、下河辺拾水の伊勢物語挿絵について、国文研ニューズ（研究ノート）、査読無、29 号、2012、pp.2－3、https://kokubunken.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=132&item_no=1&page_id=13&block_id=21

〔学会発表〕（計３件）
①藤島　綾、葛岡宣慶と『伊勢物語』、絵入本学会、2016 年 12 月 11 日、東洋文庫（東京都文京区）

②藤島　綾、カードの中の『伊勢物語』、THE EUROPEAN ASSOCIATION FOR JAPANESE STUDIES（EAJS）、2014 年 8 月 28 日、リュブリャナ（スロベニア共和国）

③藤島　綾、伊勢物語歌がるたの図様について、絵入本学会、2012 年 12 月 9 日、関西大学（大阪府吹田市）

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
藤島　綾（FUJISHIMA,Aya）
国文学研究資料館・研究部・機関研究員
研究者番号：８０５９９５５６

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）